



北鎌倉台峯トラスト 北鎌倉の景観を後世に伝える基金

会報

# 北鎌倉だより

2008年8月 NO.19



谷戸の池の落ち口

## 協働で拓く台峯の未来

### 目 次

■ 理事長就任挨拶 .....	2	■ 手入れ作業春・夏 .....	8
■ 第7回総会報告 .....	3	■ 会員の広場 .....	9
■ 会計報告 .....	4	■ 台峯緑地周縁部の開発、北鎌倉駅付近の開発 .....	10
■ モニタリング、手入れ作業活動報告 .....	5	■ 活動報告, 伝言板 .....	11
■ 台峯のモニタリング用地図 .....	6	■ 台峯のトンボ .....	12
■ 台峯のモニタリング用地図 .....	7		

## 歴史あるまちの緑を護る

理事長 石黒ひで

私どもの「北鎌倉の景観を後世に伝える基金」が活動を始めて丁度10年経ち、台峯の保全が決まって4年ほどたった。しかし景観を損なう開発はあとを絶たない。

北鎌倉の景観は、尾瀬の湿地のように、単に自然から成り立っているのではない。

私たちの会が定期的にしてきた活動は、遠くからも来られる自然愛好家などとともに毎月一度、久保さんから豊かな動植物に就いて貴重なご指示や説明を頂きながら台峯の林の中や流れのほとりを歩き、夏にはホテル観察をすることと、市所有の山道の整備から始まった山の手入れだった。

しかし台峯は単に美しい樹木や鳥と虫で特徴づけられているわけではない。中世以来の名刹、東慶寺と浄智寺が麓に存続する山であった。東慶寺は十三世紀以来尼寺として栄え、夫を逃れねばならぬ不遇な妻を、審査の末、受け入れ、滞在することを可能にした。北条貞時が建立し、明治維新まで機能していた、なんとも歴史的意義の深い寺なのである。

北鎌倉の景観の中には明治以後の歴史も織り込まれている。私の小さい家の建っている土地の地主さんは夏目漱石が参禅した帰源院

である。既にお寺の手を離れた土地にも、中世以来の鎌倉の歴史が影響を及ぼし、北鎌倉の景観をつくっているのも、それを大切に維持しないと、この土地独自の味は失われてしまう。何年か前に、北鎌倉の郵便局の近くの昭和初期に建てられた風情のあるK邸が壊されて、集合住宅が建てられたとき、戦前の鎌倉の歴史をもう少し保ちやすく出来たらよいなあと考えさせられた。

日本から多くの旅行者がヨーロッパの古都を訪れ、中世やルネサンス期から残っている都市づくりにも感銘する。それらが存続しているのは、石や煉瓦でつくられた家が多いからではない。厳しい法令で、勝手に作り変えたり周りとは不調和なものを建てるのが禁じられているからである。

鎌倉が世界遺産として登録されることを望むなら、駅をはじめ近くのビルの広告を厳しく規制しなければならない。我々が古い町の雰囲気大切に維持する努力をしなければ、既に登録されている都市と比べるとき、共通の世界遺産として受け入れてくれると考えるのは独りよがりではないか。

## 理事長就任にあたって

「私は事務的なことが不得手なので皆様にご迷惑をおかけするのではないかと心配です。ただ私が長いこと大学でさせられた仕事が、何事にも一応疑問を投げかけて見ることで、その点でお役に立つことがあるかも知れません。」

第7回総会挨拶より



石黒理事長

## 第7回通常総会

開催日時 2008年6月1日(日) 11:10

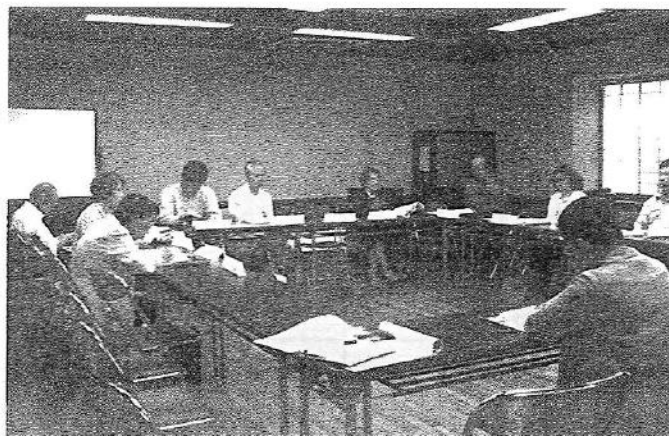
場所 鎌倉市山ノ内 1364番地山ノ内公会堂

出席者 当日出席正会員は委任状を含めて

21名(正会員29名)

第1号議案 第7期事業年度事業報告書及び収支計算書並びに2008年3月31日現在の貸借対照表及び財産目録承認の件  
賛成多数で原案通り承認可決した。

第2号議案 第8期事業年度(2008年4月1日から2009年3月31日まで)の事業計画及び収支予算書承認の件  
一部修正の後、賛成多数で承認可決した。



第3号議案 理事改選の件

理事全員の再選と、出口克浩氏を新理事に迎える件

賛成多数で原案通り承認可決した。



## 新理事紹介

### 「台峯と私」

20年ほど前になりますが、丹沢の山歩き仲間達と登山道の整備や補修作業などを手伝ったりしていました。それから数年して「日本野鳥の会」メンバーの仲間から、今迄はあまり問題にされていなかった日本の大切な伝承文化である里山の再発見を同会が提唱されたと聞いたのです。そして我々山仲間達の有志とともに、山歩きのみならず、里山活動のお手伝いを始めることとなりました。

特に放置された棚田の再生は大変でしたが、地元の最後の農家の一人に一から教えていただき、日本の棚田が代々伝えて来た事、例えば畔の作り方、其の構造、機能、形状、活用(空間を無駄にせず大豆などを植え

### 新理事 出口 克浩

る)、動植物との共生など、実にスゴイ!!作業を通してその一端を知ることが出来ました。

なだ先生と歩く会への参加を機会に、これからは地元の台峯の保全運動の結実という次世代に伝える意義のある活動として、台峯の保全の為に自然に学びながら楽しんでいきたいと思っています。



# 会計報告

(19年4月1日より20年3月31日まで)

特定非営利活動法人  
北鎌倉の景観を後世に伝える基金

科目	前期より繰越	4月～3月まで	摘要
収入	正会員費	87,000	29名@ ¥3,000
	個人会費	365,000	普通会员276名、家族会員64名
	団体会費	9,000	団体会員3件
	民間助成金	280,407	9件
	寄付金	52,000	18件
	機関誌収入	10,300	24冊
	カレンダー収入	291,000	291冊
	受取利息	38,711	定期預金他
	雑収入	7,596	絵葉書
	収入合計		1,141,014
支出	(緑地の保全・管理事業)		
	整備作業費	24,625	道具、及び研磨料
	賃借料	12,000	道具小屋借地料
	消耗品費	20,950	コピー用プリペイドカード他
	保険料	2,260	山の手入れ
	雑費	21,800	謄本他
	(普及・研修・事業費)		
	通信費	84,395	会員宛会報及び集い発送費他
	印刷製本費	229,324	会報、山歩きチラシ、カレンダー
	編集費	30,000	カレンダーデザイン
	事務消耗品費	55,292	会報他インク代
	損害保険料	2,917	山歩き
	賃借料	55,000	山歩き、会員の集い
	会議費	21,460	会員の集い
	雑費	2,352	"
	(広報・出版事業費)		
	通信費	75,642	ホームページ回線使用料
	雑費	6,940	当基金活動掲載雑誌
	(交流・協力事業費)		
	負担金	53,000	NTトラスト協会、NPOセンター会費
	事務消耗品費	4,968	活動写真のパネル作成、インク代他
	雑費、その他	2,570	振り込み料他
	(管理費)		
会議費	22,000	総会	
通信費	31,580	会員宛アンケート、入金振込料他	
事務消耗品費	46,368	封筒、用紙他	
賃借料	34,000	理事会(山ノ内公会堂)	
雑費	28,101	法人登記費用、他	
支出合計		867,544	
保有資産	現金	4780	0
	当座預金	29,876	585,676
	普通預金	1,118,131	765,620
	定期預金	12,478,089	12,553,050
	鎌倉市債	1,000,000	1,000,000
	合計	14,630,876	14,904,346

正味財産 14,904,346  
 緑積立金 13,553,050  
 ホームページ更新積立金 120,000

## 市との協働による台峯保全 (モニタリング) 始まる！

6月の『第58回台峯保全連絡会』において、鎌倉市公園海浜課から、台峯の基本設計に位置づけられている谷戸の池周辺の調査について方針の説明がありました。`具体的調査内容は以下の通りです。

- ① 水質調査（水の汚れや水中の酸素の多少を定期的に調べ、水質の変化を監視する。）
- ② 水位調査（湿地の地下水位の変化を調べ、湿地の乾燥化を監視する。）
- ③ 湿地の植物群落調査（植物の分布の現状と変化を調べ保全対策の指針とする。）

このうちの①、②は市が行いますが、①は同じ市役所でも公園海浜課が山崎浄化センターに分析方の協力を仰ぐそうで、市役所内での連携態勢が整いつつあるということでしょう。

さて③については、連絡会のメンバーを中心に実施して欲しいというのが公園海浜課からの要請です。今まで約2年にわたり実施してきた当会のモニタリング（マップ作り）は、今後こうした市から依頼された調査の色彩も帯びるものと思われま

す。このように、市がモニタリングの重要性を認識した上で、我々を含めた協働態勢で臨もうとしていることは画期的なことです。

協働についてですが、市にしても市民にしても、それぞれ自ずと限界もあれば得手不得手もあります。従ってモニタリングも分担・協働すべきでしょう。更に、当会の役割や進むべき方向もはっきりしてくるのではないのでしょうか。

また、モニタリングとは、「どんな動植物がそこにいるのか」自然の現状を把握し、分布の拡大や縮小等、どのように変化していくかを観

察して保全対策につなげていく調査です。平成26年度の台峯実施設計（具体的な整備方法の詳細が決まります）には、今後5年間の調査結果が反映されます。市もその重要性を認識してくれたということです。

我々に託された『湿地の植物群落調査』はじめ、月2回（第1日曜日8時および第3日曜日前日土曜日の同時刻より約2時間、配水池前集合、雨天中止）の当会モニタリングに是非ご参加ください。  
本田隆史

### 高校生を台峯に迎えて

今年も、NPOセンターの要請で高校生の環境保全ボランティアを受け入れました。7月30日、31日、北鎌倉女子学園と鎌倉女学院から1年生各2名が応援に来てくれました。台峯の保全にまつわる話や台峯の自然について学んだ後、鎌と刈り込みバサミで老人の畑の土手の草刈り。2日目は、山ノ内の鎮守様である八雲神社と台の台稲荷に参拝、地域の歴史を学んだ後、散策路の草刈り。汗を流した後のスイカ割りも楽しい思い出となったこと



久保廣晃

### 参加者の声

- ・作業は大変だったが、作業した後を振り返ると気持ちよかった。
- ・保全作業の意義を聞き、バツタなどを観察して、作業の意味がよく分かった。
- ・後輩にもぜひ、この作業を受け継いで欲しい。
- ・日ごろは、全くやらないことを体験できて新鮮だった。



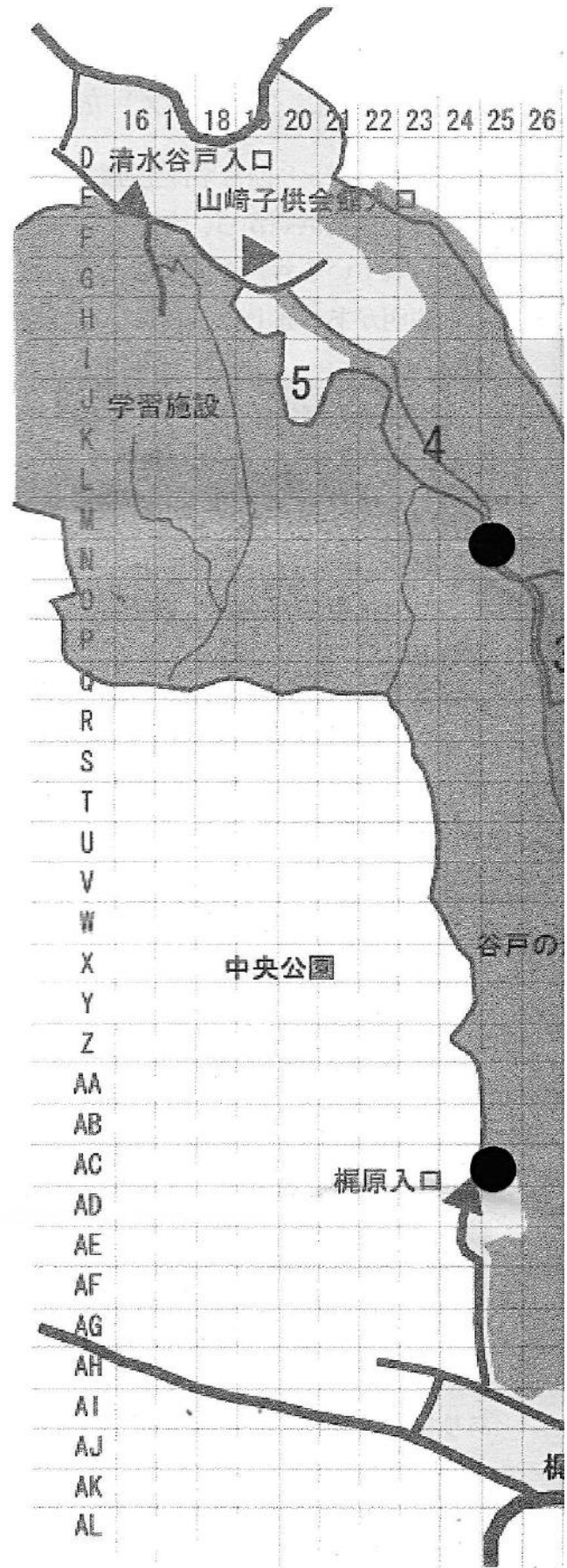
1. 老人の畑 低い草地を作る



1. 老人の畑 裸地（畑）を作る

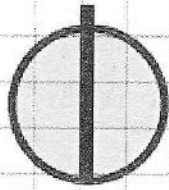


2. 散策路沿い（主に谷戸底部）の草刈

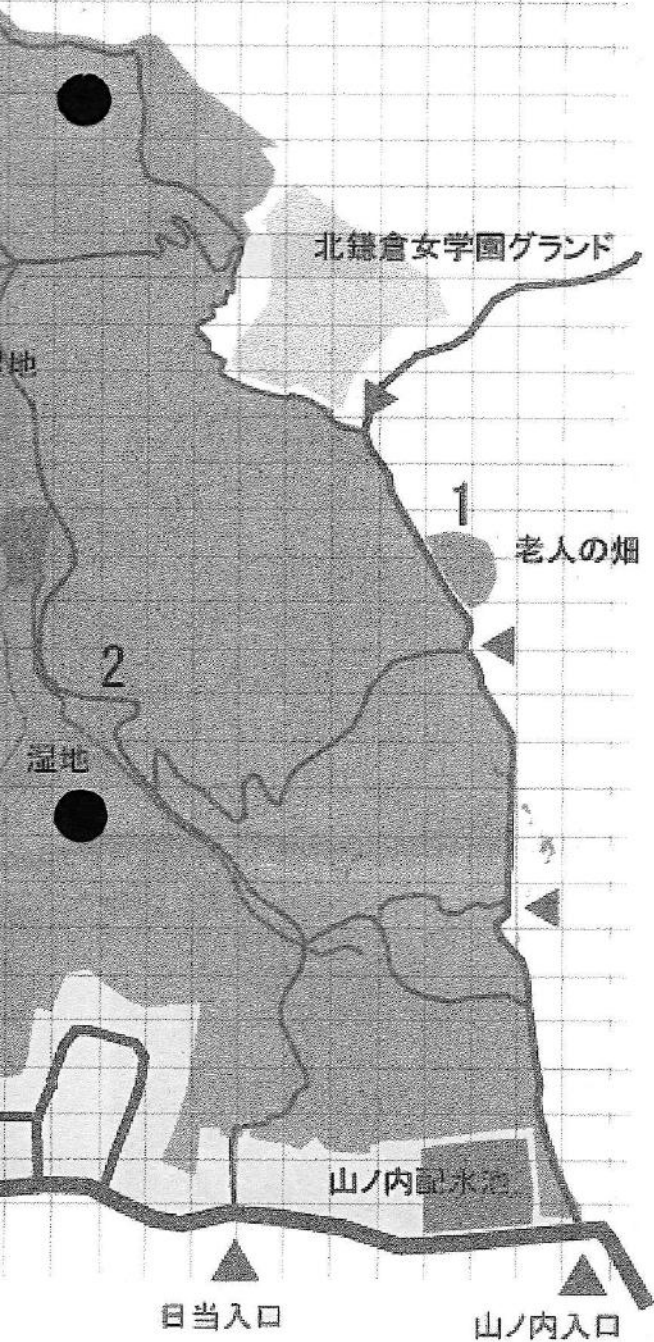


市が作成し配布

28 29 29 30 31 32 33 34 35 36 38 39 40



0 50 100 200



た 25m メッシュ入り地図より作成



3. 散策路沿い（主に谷戸底部）の路肩整備



4. 湿地のカナムグラとセイタカアワダチソウの除去



5. 山崎小学校裏の散策路沿いのカナムグラ刈り取り

# 春から夏にかけて実施した、 台峯保全活動の地図と解説

久保廣晃

## 1. 畑（通称老人の畑）の草取りと草刈

**目的：**作物を栽培するのではなく、里山生物の生息地である畑の環境を保全する。

具体的には、裸地（畑）、低い草地（足首くらいまでの草丈、土手など）、深い草地（膝くらいの草丈）、ススキの草原など、各種の草原的な環境を作る。将来的には、畑で台峯に自生する野草や樹木の苗を育成する。

**保全手法：**裸地の保全のためには草を抜く。その他は草刈の回数を毎月～年に一回程度に変えることにより多様な草地を作る。

## 2. 散策路沿い（主に谷戸底部）の草刈

**目的：**様々な植物が育つよう、人が一人やつと歩けるくらいの草刈をする。

具体的には、人が走り抜けたりマウンテンバイクが侵入できない程度の幅にとどめる。

**保全手法：**機械を用いず、手刈りで配慮しながら行う。伸びすぎて歩行の邪魔になる草を刈るが必要以上には刈らない。ササとアオキを刈りこんで抑制し、様々な植物が育つようにする。道幅を広げないよう、手前から奥に向かって、低い藪～深い藪となるよう階層的に刈る。

## 3. 散策路沿い（主に谷戸底部）の路肩整備

**目的：**流れの侵食作用による路肩の崩壊を防ぐ。6年後の実施設計の段階で本格的に補修するが、それまで散策路が崩壊しないよう保守する。

**保全手法：**土嚢を積み上げ杭で補強するなど。

## 4. 湿地のカナムグラ刈り取りとセイタカアワダチソウの抜き取り

**目的：**湿地の乾燥化によるカナムグラの繁茂を抑制し、湿地の植物（特にオギ）の保全をはかる。これが、湿地特有の動物や昆虫の保護につながる。

**保全手法：**6年後の実施設計の段階では、川の水を湿地内に導水しカナムグラの発芽を抑制することも考えられるが、現段階では、手作業でカナムグラを刈り取る作業を続ける。機械で一斉に刈り取るとオギへの影響と生物の隠れ場所が無くなることが危惧される。また、カナムグラやセイタカアワダチソウを抑制するには、冬季に、枯れた植物を掃除、除去するなど、土壌の富栄養化を防ぐことも必要と思われる。

## 5. 山崎小学校裏の散策路沿いのカナムグラ刈り取り

**目的：**現況では出入り口として使われているので、トゲがあって危険なカナムグラは頻繁に刈る取る必要がある。8年後の開園時はこの部分は出入り口としては使わない。

**保全手法：**カナムグラだけが繁茂しているので、ただ刈り取れば良い。







## 台峯の楽しみ

## 会員の広場

## ホタル観察会

「美味しい！これ手作り？すご〜い！」その声に心の中でVサインの私。一緒に台峯整備で汗をかいた後は、持ち寄ったお菓子で。ティータイムでの一コマです。

申し訳なくも私は保全運動の苦労を経験することがなく、平成17年11月より仲間入りしました。台峯の楽しみ、それは四季折り折りの自然美・変化に富んだ風景・自分の庭であるかのような満ち足りた気分・森に抱かれる安らぎ・ウグイスの声を聞きながらの作業でかく心地良い汗と仲間との一体感・赤毛のアンのように「輝く湖水」「すみれの谷」などを見つけた感動と喜び・笹のトンネルをくぐる時のワクワク感・曲がり角の先への期待感・人や鳥や蛍との出会い等など、沢山あります。台峯とみんなに感謝を込めたおやつを用意もまた楽しみの一つです。（最も評判が良かったのは、冷やしたスイカのように。）これからも私達が元気で活動を続けられるように、そして後継者が育つように、と心から祈ります。

田迎 美生子

私にとって、蛍は比較的身近な存在でした。都内のホテルで仕事をしていた私は、毎年夜の庭園に放たれる平家蛍の儚（はかな）げに輝く姿に、夏の訪れを感じていました。しかし、東京近郊で、しかも自然に生息している蛍を観察できる場所があることは、全く知りませんでした。

今回、北鎌倉・台峰の自然観察会に参加して、漆黒の闇の中でダイナミックに飛び交う源氏蛍を目の当たりにし、首都圏にもこれ程までに自然のままの姿が残されていることに、大変な驚きと感動を覚えました。

辺りが完全に闇に包まれたかと思うと、1匹2匹と飛び始め、それらに追随するようにあちらこちらで輝き始め、そして縦横無尽に飛び回る蛍たち。決して蛍たちは、観ている私達を感動させようと飛んでいる訳ではないのです。多くの人達の手で守られている台峯という自然のステージに繰り広げられる蛍たちのショーを来年も是非観たいと願っています。

小谷 美樹



## ビッグニュース!

正会員の石原瑞穂さんが第44回鎌倉美術展に出品された「ある夏の宵」（日本画）が神奈川県知事賞に輝きました。（2008.7.17）

作者は台峯で出会うホタルの切ないほどの命の輝き、宵闇の草原に満ちるキンヒバリの声、息づく山の気、そのような体験がほんの一部でも伝えられたらと願い制作したそうです。

審査講評 『神奈川県知事賞を受賞した作品「ある夏の宵」は、自然の情景を深くとらえた心の映像です。・・・(後略)』

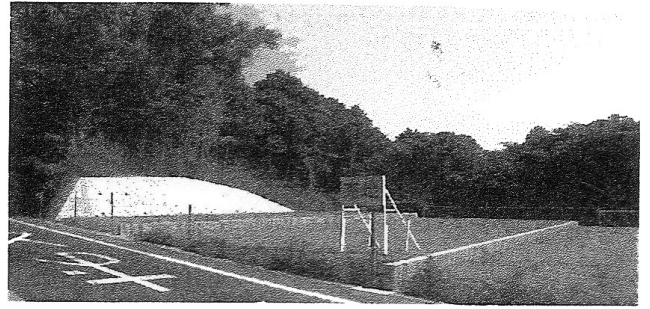
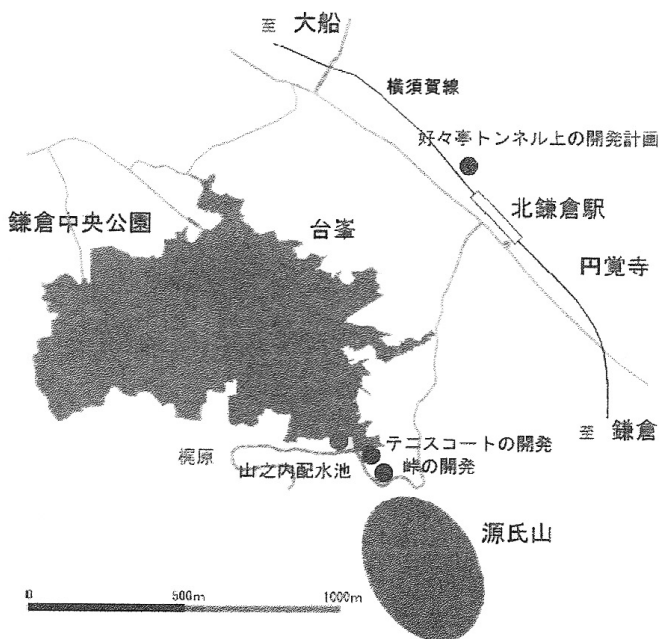
石原さんは会報やチラシに挿絵や、写真を提供してくださっています。

## 台峯緑地周縁部の開発

台峯の南側山之内配水池付近の緑地保全配慮地区に何件もの開発が行われています。ここは台峯と源氏山を結ぶ緑の回廊として生態系上貴重な緑地です。台峯を緑の孤島にしないためにも、また景観的にも重要な場所です。小規模開発を繰り返すことで大規模開発に伴うさまざまな制約を回避し、自然環境と景観を損なう宅地開発とテニスコート開発計画(約4,400㎡の緑地に3面のコート、駐車場、排水溝のみの造成計画)が進行中です。管理施設、脱衣所、トイレなどの建物を建設しないため開発手続きなしで、緑化や公園など公共的なスペースを割く義務が生じないのです。

説明会ではテニスコート開発は何の制限もなく緑地の木を伐採して更地にし、次に宅地にするために有利な条件を得るための手段ではないかという指摘がありました。

当基金は緑地保全配慮地区内での開発計画の問題点を指摘し、計画の見直しを提言する要望書を2月20日に提出しました。



既に樹木が切り倒され宅地開発され、宅地として売り出されている。左手の擁壁の奥がテニスコート計画地



左側 テニスコート開発予定地現況



## 北鎌倉駅付近の宅地開発

北鎌倉駅の大船寄り、八雲神社隣接の緑地に住宅開発計画があります。計画では赤トンネル付近の緑地は削られ景観が大きく損なわれることとなります。ここは鎌倉市都市マスタープランの中で、「鎌倉の玄関口」と謳われ、また「JR北鎌倉駅のたたずまい」として鎌倉の「景観百選」に選ばれており、多くの人がある景観を大切に思っているところです。この地域は風致地区ではありますが、開発を制限する規定がないとして、このような開発が計画されたのです。

当基金では7月16日に市長に「景観は地域の財産であり保全を要望する」旨の要望書を提出しました。この要望書に対し多くの団体から賛同をいただきました。ここに改めてお礼申し上げます。

## 活動報告

(2008/2月～7月)

1. 定例理事会 2/3・3/2・4/6・5/4・6/1・  
7/6・8/3  
定例総会 6/1
2. 台峯を歩く 2/7・3/6・4/20・5/18・  
6/15・7/20
3. 山道整備作業 2/16・3/15・4/19・5/17  
6/14・7/11,19,30,31
4. モニタリング 2/3,16・3/2,15・4/6,19・  
(マップ作り) 5/17・6/14・7/6,19
5. 台峯保全連絡会 2/25・3/24・4/30・5/30・  
6/30・7/31
6. 公園海浜課との現地調査 2/4・3/24・4/25・  
5/29・6/27・7/27
7. ホタル観察会 6/28・7/25

## 伝言板

### ●トラストの集いー10周年ーご案内

トラストの集いも第1回(1998年)から数えて10回目となります。初代理事長で現顧問のなだいなださんをはじめ、ここまで肩を並べて歩いてきた会員が親しく話し合える機会ですので是非ご参加ください。

11月30日(日)13:30～15:30  
光照寺 書院(北鎌倉駅徒歩10分)

### ●台峯の四季(カレンダー)2009年版は10月下旬作成予定です。お楽しみに!

#### 新規会員募集中

年会費 2,000円

会費及び寄付金の振込み先

郵便口座番号 00250-2-20454

口座名 北鎌倉の景観を後世に伝える基金

## 台峯保全作業の報告

猛暑の中、台峯の保全作業が展開中です。生い茂る草には月一回の作業では追いつかず、7月は3日間の保全作業を行いました。7月11日は午前と午後の部に別れ、散策路の草刈と畑の草取り草刈を行いました。参加者は10名です。7月19日の定例の保全作業には10数名の参加者があり斜面林の草刈や湿地のカナムグラの除去も実施しました。いずれも1時間半程度の作業で、一汗かいた後には恒例の茶会?が待っています。これらの作業経過は、写真と共に文書にまとめ、市と台峯保全連絡会に報告しています。

## 編集後記

本号会報は如何でしたか?会報は、会員の集いとともに会員の皆様と当会をつなぐ大切な絆と考えております。しかし実は、会報を皆様の許にお届けする郵送料が結構な負担になっているのです。もし皆様の引き出しの中に眠っている郵便切手や往復はがきの残ってしまった「復のはがき」があれば、ご寄付頂けると大変ありがたいのですが・・・。

## 会報19号

発行日 2008年8月25日

発行者 NPO法人 北鎌倉の景観を後世に伝える基金  
事務局 〒467-0062 鎌倉市山ノ内704-9

TEL 0467-47-9892

Email aramaki@gw3.u-netsurf.ne.jp

HP <http://www.kamakura-daimine-trust.org/>

写真提供: 池 英夫・石原瑞穂・市川和夫

編集者: 本田隆史・久保廣晃・市川節子

## 台峯の自然便り

## 台峯のトンボ

写真 池 英夫



オニヤンマ

日本最大のトンボ。台峯の流れを歩きかう姿は夏の風物詩。幼虫も川で育ち、トンボになるには4年ほどかかる。



オオシオシオカラトンボ

最も多く見かけるトンボ。眼が黒く、雄は濃い青色になるのでシオカラトンボと見分けられる。台峯の湿地で繁殖する。



ウスバキトンボ

群舞するトンボ、8月頃よく見かける。秋の赤トンボとは違う。幼虫は学校のプールでも育ち、約一ヶ月でトンボになる。



コシアキトンボ

腰の白さがよく目立つ。池に棲むトンボで、谷戸の池の周囲を猛スピードで廻っている。



モノサシトンボ

大型のイトトンボ。ものさしの目盛りのような青い縞模様がある。池の藻等に産卵する。県内では、やや珍しいトンボ。



ショウジョウトンボ

雄は真っ赤になるトンボ。谷戸の池に多い。いわゆる赤トンボではない。一箇所に止まり続け、縄張りを持つ。